



透明(クリヤ)

研磨しやすく、平滑に仕上がる

水性 サンディング シーラー

用途 屋内の木部・木製品の水性・油性ニス仕上げの際の下塗りに。その他塗料の下塗りに。

(一社)日本塗料工業会登録
登録番号 A02144
ホルムアルデヒド
放散等級 F☆☆☆☆
問合せ先 <http://www.toyojo.or.jp>
建築基準法で定められたホルムアルデヒドの放散量が最も少ない区分で、居室内に新築時に塗布できます。

塗りくじるときは
水
(5%以内)
でふき拭いて下さい。

塗料用具は水で洗って下さい。

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は
使用していません。

300ml

注意書きをよく読んでから使用して下さい。

本品塗装 	研磨 	上塗り塗装
標準塗り面積(1回塗り) 3.0~3.9㎡ タタミ1.8~2.4枚分	乾燥時間 夏期/30分~1時間 冬期/2~3時間	塗り重ね時間の目安 夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

商品名 水性サンディングシーラー

品名 合成樹脂塗料

成分 合成樹脂(アクリル・ウレタン)、水

特長 研磨性・速乾性を持ち、研磨することで平滑な面を形成し、上塗り塗料の仕上がりをより良いものにします。

塗装方法

下地処理は右の下地処理の注意に従って下さい。

- ① 塗る面のゴミ・油分・サビ・カビ・ヤニ・ワックスなどを取り除き、充分に乾燥させます。
- ② 本品がついて困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。(本品は浸透性が良いため、マスキングテープの端から本品がにじむことがあります)
- ③ 着色する場合は、あらかじめステイン等を塗装します。
- ④ 容器ごと振り混ぜ、中身を均一にします。容器の中がた等に付着・乾燥した塗膜は取り除いて下さい。
- ⑤ ニス・ステイン用ハケを使用し、木目にそって塗り広げます。広い面には短毛ローラーバケやペイントスプレーヤーが使用できます。
- ⑥ 表示にある塗り重ね時間の目安以上乾かしてから#320~400程度のサンドペーパーで木目にそって研磨します。
- ⑦ 研磨くずはハケやウエスなどで除去します。水で濡らし固く絞ったウエスなどで除去すると研磨くずが飛散しにくくなります。
- ⑧ 研磨くずを取り除いた後、さらに表面を平滑にする場合は、木目にそって塗り広げ、乾いてから#320~400程度のサンドペーパーで木目にそって研磨する作業を繰り返します。
- ⑨ **本品は下塗り用です。必ず用途にあつた上塗りをして下さい。**
- ⑩ マスキングテープは、本品が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

本品が乾かないうちに、水が漏れ洗って下さい。

保管上の注意

- ① 幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食しないように注意して下さい。
- ② 直射日光や火気のある場所、-5℃以下になると、自動車内などの高温になるところには置かないで下さい。
- ③ 残った塗料はしっかりとキャップをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。

救急処置

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。

株式会社 **アサヒペン**

大阪市鶴見区鶴見4-112
<http://www.asahipen.jp>



4 970925 438492

お客様相談室

☎06-6934-0300

取扱い上の注意

- ① 表示の用途以外に使用しないで下さい。また、食器など直接口に触れるものや、犬小屋や鳥かご、その他ペットなどがなめたり、かじったりするような木部には使用しないで下さい。
- ② 体調が悪いとき、アレルギー化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。
- ③ 塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。
- ④ 目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また誤飲しないよう注意して取扱って下さい。皮膚に付着したまま放置すると、炎症を起こすことがあります。必ず皮膚に触れないように保護手袋を着用して下さい。
- ⑤ 使用している原材料の影響で塗装後もしばらくの間は臭いが残ります。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いがないくなるまでは、ときどき換気をして下さい。
- ⑥ 塗装は雨の降りそうな日や高温の高い日は避け、天気の良い日に塗って下さい。
- ⑦ 塗るときおよび塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。
- ⑧ **絶えず水がかかったり、水につかるようなところや、いつも濡れているところには塗しません。**ピアノ、美術工芸品、高級家具(桐の家具等)、自動車、油加工(ロウ仕上げワックス)、化粧合板などには使用しないで下さい。
- ⑨ ヤニやクズの多い下地に塗装した場合、乾燥が著しくなることや乾かないことがあります。
- ⑩ ヤニのある箇所は、ラッカーうすめ液でヤニを充分拭き取って下さい。
- ⑪ ヤニやクズを含む下地に塗装しますと塗膜にニジみやべたつきが出てきます。必ず、アサヒペン強浸透性水性シーラーを下塗りして下さい。
- ⑫ 塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。特に、木口など吸い込みの多い部分は、多くの塗料が必要です。
- ⑬ 生木や乾燥が不十分な木材には塗装しないで下さい。はがれ、白化等の原因になります。また、ラッカー系の上塗り塗料は厚く塗ると下地を腐らす恐れがあります。うすく塗って下さい。
- ⑭ 一度に厚塗したり、水で下塗りすると乾燥に長期を要する場合があります。
- ⑮ 容器は塗料を使い切ってから捨て下さい。やむをえず塗料を捨てるときは、アサヒペン水性・油性兼用塗料固化剤で固化するが、新聞紙などに広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
- ⑯ 落ささせると、中身が漏れることがあるので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

フレックハガレ防止のため、以下の処理をして下さい。

【旧塗膜をはがす場合】

- ① すでにある塗膜は、研磨するなどして完全に取除きます。
- ② 塗面の汚れやワックスを取り、油分やヤニはラッカーうすめ液で拭き取ります。
- ③ 塗装面全体を、木目にそって#240程度のサンドペーパーを使用してきれいになります。

【旧塗膜を残す場合】

- ① 旧塗膜の汚れをウエスなどでよく落とします。
- ② あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、乾燥性・下地への影響・密着性等を確かめます。
- ③ すくにはがれる場合や異常がある場合は、旧塗膜をはがして下さい。はがせない場合は使用できません。

日本製

00-1709

キャップ: プラスチック(PP)

中ぶた: プラスチック(PE)

容器: ガラス